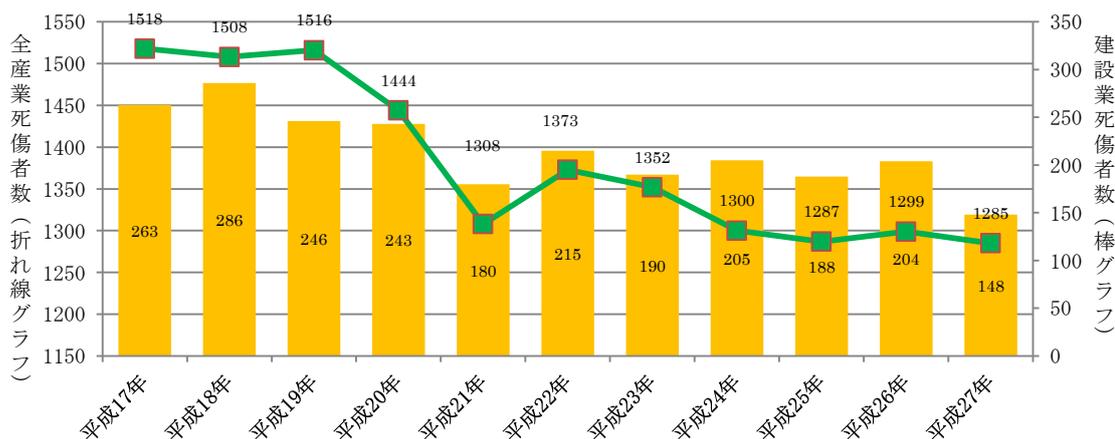


● 建設業における休業4日以上労働災害の発生状況

宮崎県内の休業4日以上労働災害の発生状況をみると、平成27年の死傷者数は1,285人(前年より1.1%減)となった。

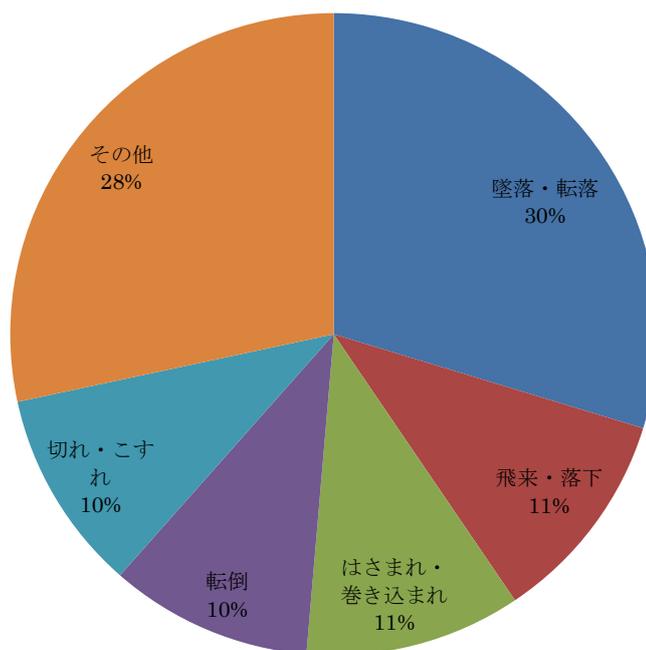
建設業においては、148人で、28.9%の減少となった。

建設業における休業4日以上災害発生状況
宮崎県



建設業における
休業4日以上労働災害の発生状況
事故の型別、平成27年

平成27年においては、事故の型では、「墜落・転落」が全体の30%、「飛来・落下」及び「はさまれ・巻き込まれ」が11%、「転倒」及び「切れ・こすれ」が10%を占めている。

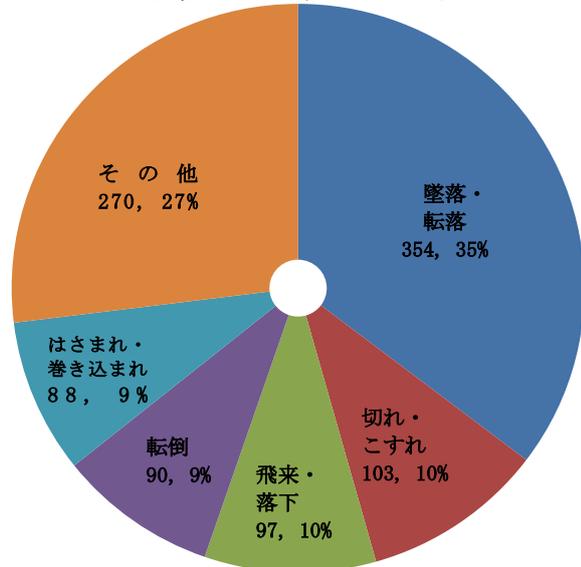


● 平成22年から平成26年の休業4日以上死傷災害

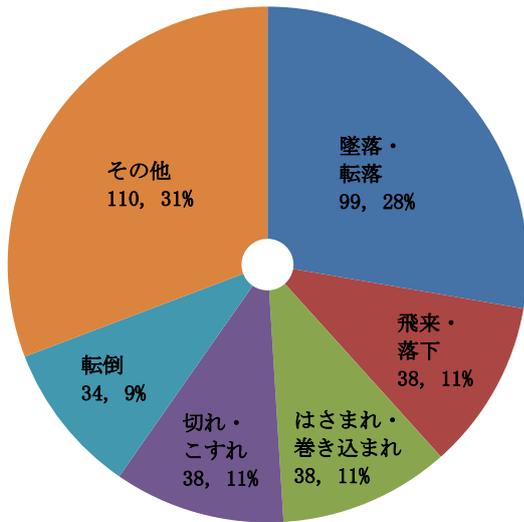
(1) 事故の型別

建設業の平成22年から平成26年における休業4日以上死傷者数は1,002人となっているが、事故の型別にみると、「墜落・転落」が35%、「切れ・こすれ」と「飛来・落下」が10%、「転倒」と「はさまれ・巻き込まれ」が9%となっている。

建設業における災害発生状況
事故の型別 (H22~H26)

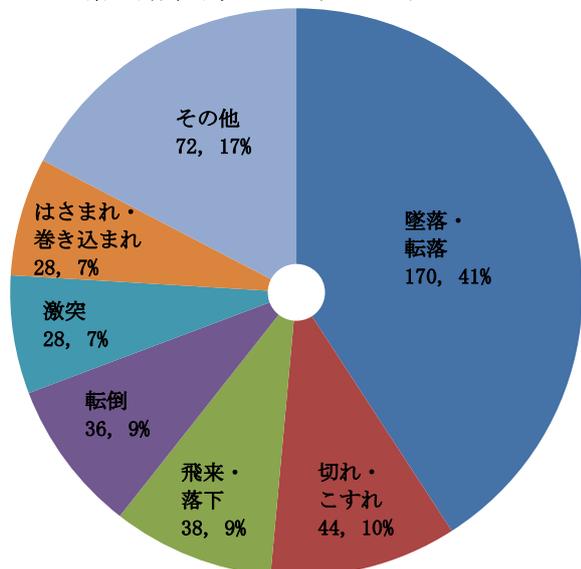


建設業における災害発生状況
土木工事業、事故の型別 (H22~H26)



土木工事業では、「墜落・転落」が28%、「飛来・落下」及び「はさまれ・巻き込まれ」並びに「切れ・こすれ」が11%、「転倒」が9%を占めている。

建設業における災害発生状況
建築工事業、事故の型別 (H22~H26)



建築工事業では、「墜落・転落」が41%、「切れ・こすれ」が10%、「飛来・落下」と「転

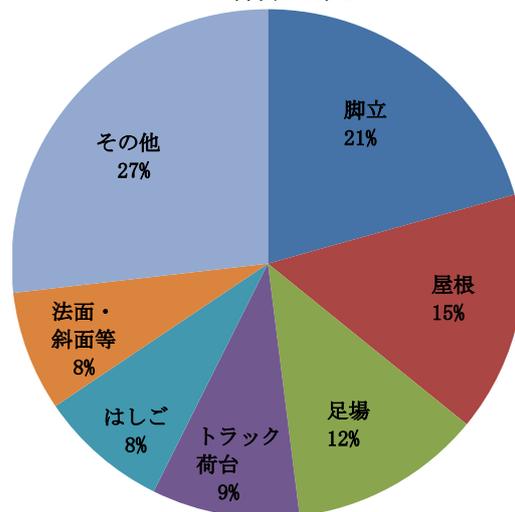
倒」が9%を占めている。

(2) 「墜落・転落」災害

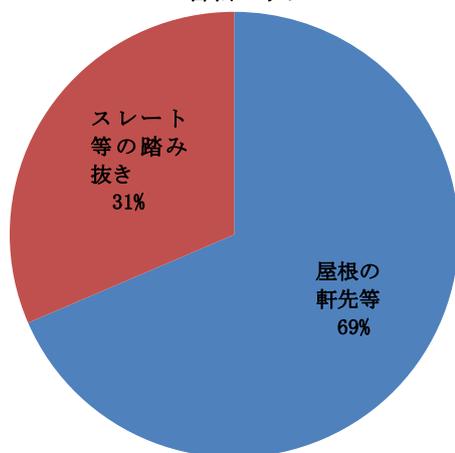
建設業において、「墜落・転落」災害は35%を占めているが、起因物別にみると、「脚立」が21%、「屋根」が15%、「足場」が12%、「トラックの荷台」が9%、「はしご」が8%となっている。

「脚立」と「はしご」で3割を占めている。

墜落・転落災害の発生状況
起因物別 (H22～H26)
合計354人

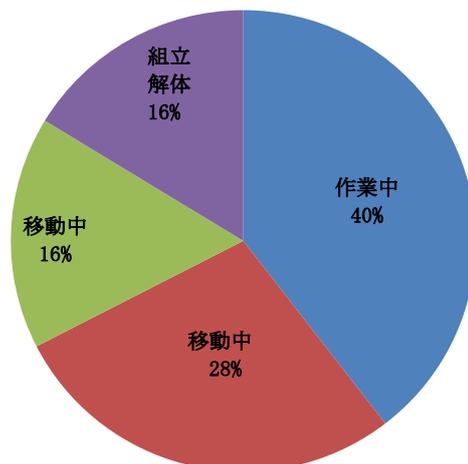


屋根からの墜落・転落災害
H22～H26
合計54人



屋根からの「墜落・転落」災害を見ると、軒先等からの転落が69%、スレート等の踏み抜きが31%となっている。

足場からの墜落・転落災害
H22～H26
合計43人

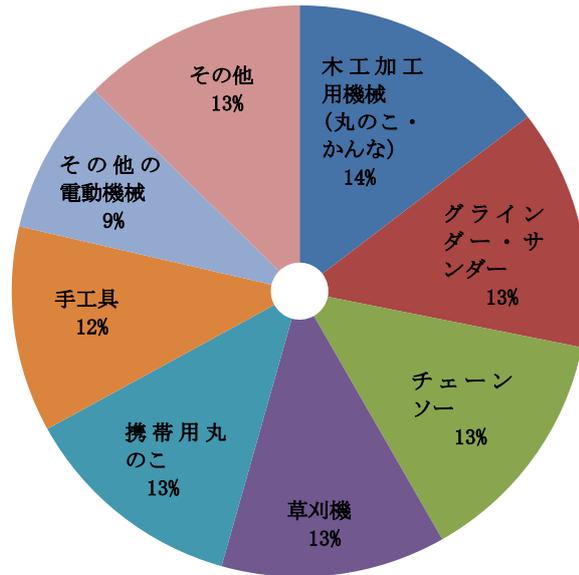


足場からの「墜落・転落」災害を見ると、約半数が移動中の災害で、その6割が昇降設備等を使用していない。

(3) 「切れ・こすれ」災害

建設業において、「切れ・こすれ」災害は10%を占めているが、起因物別にみると、「木材加工用機械」、「グラインダー・サンダー」、「チェーンソー」、「草刈機」、「携帯用丸のこ」が、それぞれが13%から14%となっている。

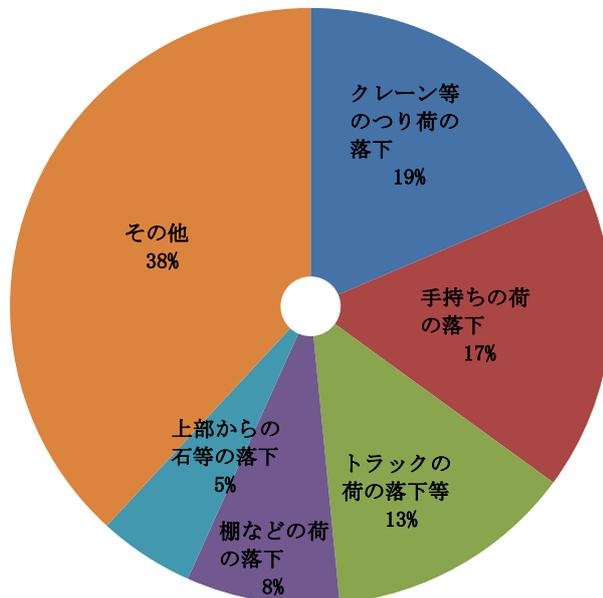
「切れ・こすれ」災害
H22～H26
合計103人



(4) 「飛来・落下」災害

建設業において、「飛来・落下」は10%を占めている。災害の内容をみると、「クレーン等のつり荷の落下」が19%、「手持ちの荷の落下」が17%、「トラックの荷の落下等」が13%となっている。

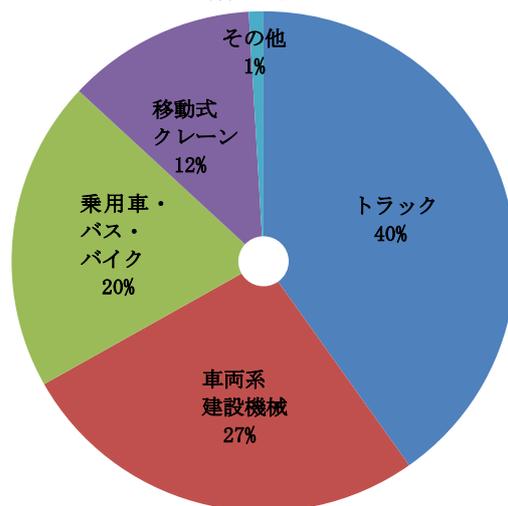
「飛来・落下」災害
H22～H26
合計97人



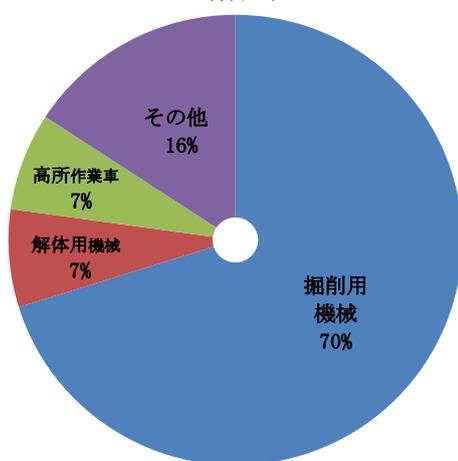
(5) 車両系建設機械等に係る災害

車両系建設機械等の車両系の機械の災害発生状況をみると、トラックが40%、車両系建設機械が27%となっている。

建設業における災害発生状況
車両系の機械の種類別 (H22～H26)
合計214人



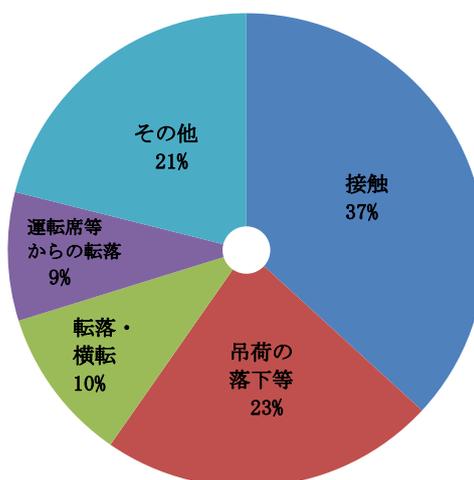
建設業における災害発生状況
車両系建設機械別 (H22～H16)
合計57人



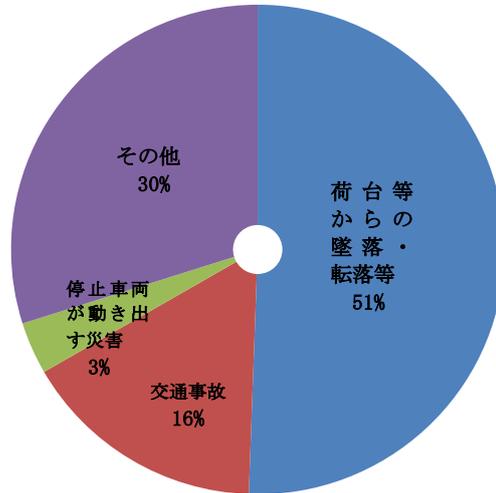
車両系建設機械については、掘削用機械が70%を占めている。

車両系建設機械の災害をみると、接触が37%、吊荷の落下等が23%、機械の転落・横転が10%となっている。

建設業における災害発生状況
車両系建設機械 (H22～H26)
合計57人

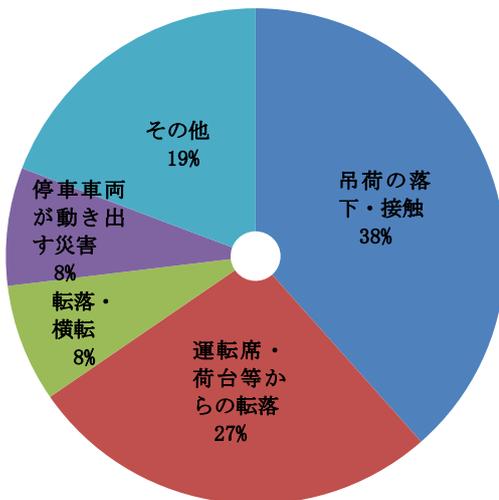


建設業における災害の発生状況
トラック (H22～H26)
合計87人



トラックに係る災害をみると、荷台等からの墜落・転落等が51%と半分を占めている。件数は少ないが、停止車両が動き出す災害も発生している。

建設業における災害発生状況
移動式クレーン (H22～H26)
合計26人



移動式クレーンに係る災害をみると、吊荷の落下・接触が38%、運転席・荷台等からの転落が27%、転落・横転が8%、停止車両が動き出す災害が8%となっている。